

令和7年度 三宅支庁組織方針

I 目的

- 三宅島・御蔵島の持続的発展に貢献する。

II 戦略・戦術

戦略1 災害リスクの低減と対応力の強化を図り、村民の生命・財産を守る。

〈戦術1〉 地震・噴火などの自然災害に備える基盤整備を計画的かつ着実に進める。

〈戦術2〉 防災訓練や噴火等の対応検討を通じ防災意識を高めるほか、様々な機会を活用し、関係機関との連携を強化するなど、平時から災害への備えを万全にする。

戦略2 両村の自主的・自立的な行政運営に向けた支援を行う。

〈戦術1〉 両村との緊密な連携を通じて村の課題や置かれた状況を理解したうえで、村の主体的な取組に対して支庁の有する技術や情報を十分に活用し、事務・技術双方の面でサポートする。

〈戦術2〉 都職員派遣を終了した御蔵島村については、現地を訪問し意見交換の回数を増やすなど「顔が見える関係」の構築に努め、村のニーズを把握し応える取組を実施する。

戦略3 持続可能な産業振興への取組を後押しする。

〈戦術1〉 関係団体と緊密に連携し、担い手の確保・育成などの取組を推進するとともに、本庁と連携しながら、東京宝島事業や移住・定住促進事業等を支援する。

〈戦術2〉 地域資源を生かした産業振興を目指し、特産品の生産・開発、地産地消の推進・流通に必要な施設整備の支援や技術的な助言を行うとともに、SNS 等を活用した効果的な情報発信により島の素晴らしさを島内外にアピールし、付加価値の向上に取り組む。

戦略4 インフラの活用や維持管理を通じ、島の魅力や生活基盤の機能向上に寄与する。

〈戦術1〉 三池港船客待合所のリニューアル、雄山環状林道の早期開通等に向けた取組を進めるとともに、空港イベントの開催など、島のインフラを活用した魅力発信を進める。

〈戦術2〉 利用者の目線に立って、施設を適切に維持管理する。

III 成長する組織づくり

○ 両村に寄り添い、課題解決に向けた取組を支えられるよう、職員は地域に溶け込み、住民の声に耳を傾ける。また、行事やイベントはもとより、新たな取組や事業展開に際して、様々な形で協力・支援する。

○ 様々な事業がまとまっている「ミニ都庁」たる性質を生かし、課や職種、経験年数を超えた活発な議論を通じ、若手職員の意見も積極的に取り入れ、オープン&フラットな組織づくりを進める。

○ 「2050 東京戦略 ～東京 もっとよくなる～」や両村の中・長期計画等が示す将来像を視野に、関係機関との意見交換等を通じて、課題を的確に把握し、解決していく。

○ 「シン・トセイ X」等を踏まえて業務の効率化を進めるほか、超勤縮減や15日以上の年休取得の促進などに取り組み、職員の「手取り時間」の増加を通じたライフ・ワーク・バランスの推進を図る。

○ 「東京都コンプライアンス基本方針」等に基づき日々の業務に取り組むほか、「三宅支庁職員コンプライアンス必携」等を活用するとともに、コミュニケーションを密にとり、組織として業務を行うことを意識し、コンプライアンスの徹底を図る。